

日本語教室開催事例

01

日本語教室をつくりたいけど、どうすればいい？
- 県内で近年立ち上がった日本語教室をご紹介します！

事例01 新庄市民プラザ日本語教室

※2025年度の実施状況

主催

新庄市民プラザ

日本人サポーターと学習者が、小グループで
おしゃべりしながら学び合う形式

形式

対話・交流型

2レベル開講

教材に沿っておしゃべりしたあと、
それをもとに作文を書いて、最後に
グループを変えて発表します。毎回
いろいろな人の話が聞けて楽しい！

時間

日曜日10:00 - 12:00

月2回程度（1～2月はオンライン）、年間22回

参加費

2,000円/年（教材代別）

書道体験

参加者

12名（インドネシア、フィリピン、タイなど）

講師1名、サポーター登録者12名（毎回3～6名が参加）

教材

県で作成中の対話型教材を試用。講師が進め方を検討し準備。
書道や和菓子作り体験など、文化体験も取り入れている。

主催者の声

立ち上げの背景は？

—日本語教室を、地域と外国人住民をつなぐツールのひとつとして位置づけ、住民同士のコミュニケーション力の向上を図るとともに、外国人との隔たりのないまちづくりを目指して立ち上げました。文部科学省（当時文化庁）の「地域日本語教育スタートアッププログラム」を受託して開設しました。

開催してみたの反響は？

—サポーター登録者が徐々に増え、地域の高校生が参加するなど、広がりをみせています。日本語を学ぶだけでなく、日本語を使って市民同士が交流する場になっています。

学習者の声

日本語の勉強や、いろいろなイベントがあって、先生やサポーターの方がやさしく丁寧に教えてくれるので、とても感謝しています。

講師の声

外国出身者も日本人住民も、いつでも誰でもふらっと立ち寄れる居場所づくりを目指して活動しています。

対話・交流型の日本語教室は、日本人と学習者が対等な立場で参加し、互いに学び合います。住民同士がつながる場としての日本語教室は、多文化共生を目指すまちづくりの拠点となります。教室運営や教材については、日本語教育コーディネーターにご相談ください。
(山形県日本語教育総括コーディネーター)